



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3829 号 2017.8.11 発行

障害男性、和ろうそくの絵付け師に 京都の老舗、作品を販売



京都新聞 2017年8月10日

精神に障害のある男性が手掛けた和ろうそく（京都市中京区）

精神に障害のある男性によって絵付けされた「和ろうそく」の販売が、このほど京都市中京区の店舗で始まった。3月から絵付け師として働き始め、ほかの職人の作品と同等の出来栄となったことから市場に出た。後継者不足が課題の伝統工芸の世界で、障害者が新たな担い手として活躍しようとしている。

障害者雇用に意欲のある事業者にアドバイザーの派遣などをする京都市の事業を活用し、和ろうそくの老舗「中村ローソク」（本社・伏見区）が雇用した。市内在住の40歳代の男性で、中村ローソクのセレクトショップ「おつかいもの本舗寺町六角店」の2階で絵付け作業に取り組んでいる。細筆で描く根気のいる作業だが、集中力が途切れることなく、絵のバランス感覚に優れて

いるという。

販売しているのは高さ約12センチ、直径約2センチの2本セット（税抜き1800円）で、ハスと小菊、フジ、シダレザクラの4種類。ほかの絵付け師が手掛けた製品ともに並んでいる。特に年間通じて人気のハス柄は、バランスや細かさから描くのが難しいが、「センスが良く、彼が手掛けるようになってからも変わらず売れている」（同店）という。

田川広一社長（54）は「障害者の作品ではなく、たまたま購入した製品を障害者が手掛けていた、というのが本来の働き方。同様の雇用の形が広がってほしい」と話す。

商品の問い合わせは同店075（221）1621。不定休。

「見た目」問題 個性を漫画で描く プラスにとらえ社会へ

毎日新聞 2017年8月10日

「見た目問題」を抱える当事者たちの中には、世間の根強い偏見など過酷な経験をした末、引きこもりになったり、自暴自棄になったりする人も少なくない。だが、自身の努力や周囲の支援を通じ、「見た目」をプラスにとらえて社会を歩む人もいる。

個性を漫画で描く 口唇口蓋裂「タガッシュ」さん

「毎日充実した日々を過ごしています」と語るタガッシュさん
ペンネーム「タガッシュ」さん（21）＝埼玉県＝は、生まれつき「口唇口蓋裂」の症状で、幼い頃から「つ」をうまく発音できなかった。唇の真ん中に隙間（すきま）があり、鼻と口の間で骨がなかったからだ。

奥歯でかむ食事は時間がかかり、小中学校の給食は人よりも



遅かった。手術の影響で鼻がつぶれていたこともあり、級友にからかわれた。中学卒業まで、教室の中から外を眺め「飛び降りたら楽になるかな」と、何度も思ったという。

鼻を整形したり、腰の骨を口と鼻の間に移植したりする手術を9回、受けた。折れそうな心を、いつも家族が支えてくれた。母親は外国の英文サイトまで調べ、症状の治療に役立つ情報なら何でも集めてくれた。

転機は工業高校への進学だった。絵を描くのが好きで、デザイン科を選んだ。そこで出会ったクラスの仲間たちが、価値観を180度変えてくれた。仲間は絵やデザインを含め、皆「やりたいこと」が明確で、誰も外見など気にしないふうだった。「居場所」を見つけた安心感より、むしろ「もっと個性を出さないと」と、焦りさえ覚えた。

自分の中で眠っていた積極性が開花した。ヘビーメタル好きが高じてロックバンドを組んだり、同人誌のイベントに漫画作品を持ち込んだり。好きなことに打ち込む日々を過ごすうち、症状と向き合う余裕ができ、「見た目問題」をテーマにした漫画の制作を始めた。

登場するキャラクターは十人十色。やけどの痕や大きなアザの持ち主、両腕両足がない人や同性愛者……。多様な個性を持ったキャラクターの何気ない日常や内面の成長を、今も描いている。

歯の矯正など定期的な通院はしている。ただ、自分の中に、症状を悲観する気持ちはもうない。「どんなに少数でも、同じことが好きな人は必ず見つかる。そうしてできたつながりは人生を変えてくれる」と信じているから。【飯田憲】



口唇口蓋裂（こうしんこうがいれつ）

「今は仕事にやりがいがある」と話す三橋さん

生まれつき唇や上あごに裂け目がある症状で、歯や歯茎が欠けていることも多い。手術で裂け目を縫合し、歯の欠損部には骨盤の一部などを移植する。国内では500人に1人が、この症状で出生するとされる。

私から積極的に話す 単純性血管腫 三橋雅史さん

三橋雅史（みつはしまさふみ）さん（35）＝千葉県＝は、生まれた時から「単純性血管腫」の症状で顔の左側の目から頬にかけて赤いアザがある。幼い頃から、すれ違う人にじろじろ見られたり、「気持ち悪い」と言われたりした。「前世で悪いことをしたからだ」。根拠もないのにそんな迷信じみた言葉を口にする大人もいた。

小学校時代は友人もいたが、中学、高校と進むにつれ、他人とうまくコミュニケーションがとれなくなっていった。自分から他人に関わろうとしないから、相手も近づいてこない。悪循環で孤独が深まった。

大学に進んだものの、1年で中退。約半年間、家に引きこもった。真っ暗な心のトンネルをさまよった末、「死んだつもりで生き直してみよう」と覚悟を決めた。始めたのは、新聞配達のアルバイト。働く中でお金がたまり、体力がついた。そして、テレビ番組の影響で、自宅から沖縄の海を目指す自転車一人旅を計画した。約半年にわたる旅では多くの人たちから話しかけられ、他人との交流が楽しくなっていった。夜はほとんど野宿し、多くの路上生活者と出会った。「こういう人たちを助けられたら……」。福祉の仕事に就こうと決心した。

旅を終えると、勉強をやり直し、23歳の時に再び大学へ。ボランティアサークルに入って仲間を作り、就職活動では「見た目」をアピールした。「自分には苦しい人の立場が痛いほど分かる。だからこそ寄り添える」

民間企業を経て、現在は地方公務員として念願の福祉の仕事に就き、生活保護を担当する。今も偏見への恐怖は消えてはいないが、他人に関わることにためらいはない。「相手も、自分の顔を見て、どうしたらいいか分からないと思う。だから、私から積極的に話しかけていく」【平塚雄太】

単純性血管腫 「ポートワイン血管腫」とも言われる。生まれつき、均一でむらのない赤・ピンク・紫のアザが、顔や首、手足などにある症状。レーザー治療が一般的だが、完全に消えない場合もある。

「自己放任」孤立死 道内で深刻化 「人間関係希薄に」

北海道新聞 2017年8月10日

孤立死した札幌市北区の男性の自宅玄関に手向けられていた花束
福祉の支援や近所付き合いを自ら拒む「セルフネグレクト」
(自己放任)による孤立死が道内で深刻化している。札幌市北区の住宅で今年春、死後約2カ月で見つかった独居の72歳男性は福祉サービスを拒否していた。道の統計では2016年の孤立死は92件で、この4年間で倍増しており、セルフネグレクトが影響しているとみられる。専門家は「配偶者との死別や病気などをきっかけにだれもが陥る可能性があり、対策は急務」と指摘している。

■住宅にごみ散乱

「支援は何もいない」

札幌市北区の住宅で4月に遺体で見つかった72歳男性は数年前、福祉サービスを勧められるために訪れた地域包括支援センター職員に玄関先で、そう断ったという。住民の通報で遺体が発見された時、床は生ごみなどで埋め尽くされていた。

近隣住民らによると男性は妻と数年前に死別。一人息子は知的障害があり、8年前から施設に入所している。収入はわずかな年金のみで水道料金や光熱費を滞納していた。近くに住む70代男性は「昨秋に会った時、買い物袋に入れた6切れの食パンと500ミリリットルのミネラルウォーターを見せて『これで3日は持つ』と話していた」と振り返る。

亡くなった男性には複数の持病があったが、町内会役員が訪ねても困り事を話さなかった。役員の女性は「どう手を差し伸べれば良かったのか。答えは今も分からない」とうつむく。



特養、入所待機7339人 県調査、新設追いつかず 中日新聞 2017年8月11日

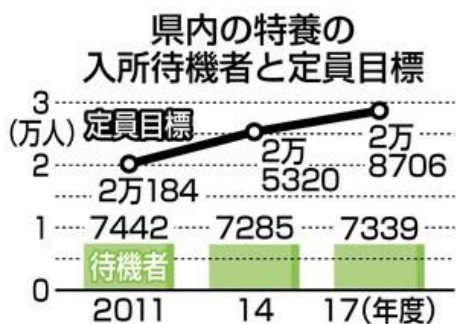
県内の特別養護老人ホーム(特養)に入所を希望している待機者は本年度当初で、七千三百三十九人に達することが分かった。県が調査結果を公表した。前回二〇一四年度の調査に比べ、五十四人増。高齢化に伴う入所需要増に、特養の新設は依然、追いついていない。

特養には、認知症や寝たきりなどの状態で、食事や排せつ、衣服の脱着などに介助を必要とする高齢者らが暮らす。介護保険の要介護では3、4、5のお年寄りだ。

県は三年に一度、県内の特養に待機者数などを聞き取り。今回は四、五月に全三百六十五施設を調査し、三百三十一施設から回答を得た。

「一年以内」に入所を希望している待機者の総数から、複数の施設に重複して申し込んでいる人や、老人保健施設などに既に入所している人の数などを除くと、七千三百三十九人だった。

内訳は、「要介護5」が二千百五十五人、「4」が二千五百九十八人、「3」が二千五百八十六人。地域別では、名古屋市内在が二千四百七十八人で最も多く、東三河南部圏域(豊橋、



豊川市など）が七百三十七人、西三河南部東圏域（岡崎市、幸田町）が七百二十五人だった。

県の「高齢者健康福祉計画」によると、社会福祉法人などが特養を新設する際、定員一人あたり三百四十万～四百八十万円を補助する。

計画では、一七年度末の定員目標は二万八千七百六人だが、四月時点の定員は二万六千五十五人とどまる。

県高齢福祉課の担当者は「核家族志向が強い都市部で入所希望が増え、製造業が集積する三河では介護人材が不足するなどの課題も表れている。地域の人口の社会増減、年齢構成なども見ながら、計画を進めたい」と話している。（相坂穰）

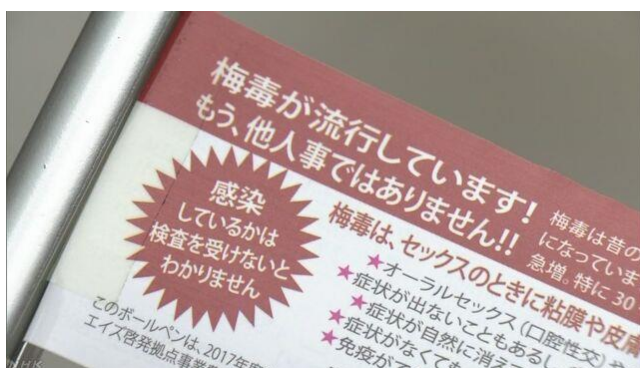
「コンドームつけて」思いをボールペンに

NHKニュース 2017年8月10日

性感染症、梅毒の感染が拡大しています。感染者はこの10年で4倍です。「感染を防ぐ意識を持ってほしい」「検査に行ってほしい」。そんな思いから、性風俗産業で働く人たちの安全衛生向上を目指す団体があるボールペンを手にして東京の街で啓発活動を行いました。（ネットワーク報道部 岡田真理紗）

10日有楽町駅前

8月10日の夕方、有楽町の駅前。道行く人に声をかけボールペンを配る人たちの姿がありました。今、感染が急増している「梅毒」の感染予防を呼びかけるためです。ボールペンには無料・匿名で検査を受けられる保健所などの一覧表がついています。



この活動をしたのは、性風俗の店で働く人の健康と安全を守るために活動している団体、「SWASH」。店で働く人たちと団体のサポーターが参加しました。

去年1年間に梅毒に感染した人は4557人、10年前の718人の4倍以上。（国立感染症研究所調査）特に増加しているのは20代の女性と、30代から50代の男性です。

梅毒に感染すると

梅毒は古くからある性病のひとつ。粘膜同士の接触で感染するため、セックスだけでなく、オーラルセックスやキスでも感染します。感染すると、性器などにしこりができたり、全身に発疹ができたりします。治療しなくても症状が自然に消えるため「治った」と勘違いされることもあります。さらに症状が出ない人も3割程度いるため、気づかないうちに相手に感染させてしまうケースも出ています。早期に発見すれば薬で完治しますが、進行してしまうと最終的には死に至る危険もあるのです。



また女性の場合、妊娠中に感染すると、流産や死産の原因となるほか、赤ちゃんに先天性の障害が出るおそれも指摘されています。

コンドームをつけ、粘膜を接触させないことで、感染のリスクを減らすことができますが、SWASHの代表の要友紀子さんに聞くと、これが難しいといいます。

「サービスのうち、特にオーラルセックスはコンドームをつけずに済むことが主流となっているからです」

実態を調べた調査もありました。

なぜ着けない？調査から見ると

厚生労働省のエイズ対策研究事業に採択され、平成19年から20年にかけて行われた調査です。

風俗サービスを利用した経験がある男性785人が回答しました。「過去1年間に風俗店に行った」と答えた人は390人。このうち直近に利用した性風俗店でコンドームを毎回装着したと回答した人の割合は、ソープランドが64.4%、店舗型ヘルスが32.9%などとなりました。

このうちコンドームをつけなかった人に、理由をたずねています。以下の選択肢に「あてはまる」または「大いにあてはまる」と答えた人の割合は「セックスはできるだけ自然な姿でいたい」が52.8%、「快感がそこなわれるから」が51.1%。このほか「性病、エイズの心配がなかったから」が40.7%、「自分は大丈夫と安心していただけ」が39.3%でした。数字から見ると感染の危険を軽く考えている人が多い傾向がうかがえました。



働く人たちの声は

風俗店で働く女性に話を聞いたところ、性風俗店は「コンドームなしでの接客」を売りにしているところも多く、女性側が嫌だということ「それではお客が取れない」「指名がつかない」と言われることがあると話していました。

また着けることを決めている店でも「コンドームを使わないでサービスをしてほしい」とお客が要求してくるケースもあるそうです。

先ほどの調査にも「女性にコンドームを使わないサービスを依頼したことがあるか」という項目がありました。「あてはまる」または「大いにあてはまる」と答えた人は4人に1人でした。(26.8%)。



お客さんに渡したい

SWASHは、これまで風俗店で働く人を対象に感染を防ぐ研修や勉強会を開いてきました。しかし、働く側だけではなく、客側の意識も向上させることが欠かせないと考え、今年はじめに作ったのが、啓発ボールペンです。作ったことをツイッターなどで知らせたところ、風俗で働く女性たちから「お客さんに渡したい」と連絡があり、

すぐにボールペンを送りました。

要さんは「お客さんに自分で”コンドームをつけてほしい””検査にいいほしい”と言にくい雰囲気があるが、啓発グッズがあれば話しやすいんです」と語っていました。

啓発活動に参加した人たちは連休前の夜の東京で、道行く人に声をかけ、ボールペンを

手渡していました。店では感染の不安を口に出せず、ボールペンで思いを伝える人もいると思います。

感染を防ぐための啓発活動。まずは小さな一歩ですが、SWASHの人たちは今後も続けていくことにしています。

「朝起きられぬ」病気に理解を 保護者らが冊子 思春期に多い起立性調節障害 「家・学校で支えて」 日本経済新聞 2017年8月11日



思春期の子供が発症しやすい起立性調節障害（OD）への理解を深める活動が広がっている。目まいがし、朝なかなか起きられないなどの症状から「怠けている」と誤解されやすい。保護者らは対処法を記した冊子を学校に配ったり、ODの子供と親が悩みを分かち合う場をつくるなど工夫を凝らす。社会的な認知度はまだ低い。専門家は「家庭と学校が一丸となった支援体制が必要だ」と指摘している。

起立性調節障害の子供を持つ親が悩みを共有する「Aliceの会」（7月、神戸市中央区）

「毎日ひどい風邪をひいているようだった」。大阪府東大阪市の高校2年の女子生徒（17）は小学4年のころ、立っているだけで目まいに襲われることが増え始めた。特に朝は頭痛でなかなか起き上がれない。授業

にも集中できず、学校を休みがちになった。

「学校に行きなさい」。親からは叱られ、担任教諭には「休んでばかりじゃ、あかん」と手を引かれて登校したこともあった。中学校進学時に病院でODと診断され、治療を続ける。女子生徒は「周囲からサボっていると思われるのがつらかった」と胸の内を明かす。

ODは自律神経失調症の一つで、立った状態のときに脳や全身に血液が回りにくくなる。日本小児心身医学会（京都市）の推定では10～16歳の発症率が高く、軽症を含めると小学生の5%、中学生の10%に現れる。個人差はあるが、適度な運動や水分補給、血圧を上げる薬の服用などで症状は改善するという。

ODの子供を持つ親らでつくる団体「起立性調節障害ピアネットAlice」（神戸市）の塩島玲子代表は「病気のことを知らない親や教師は多い」と指摘する。同団体が昨年、ODの子供ら約130人に実施したアンケートでは家族や教師、友人らに「がんばれ」「気の持ちようだ」「家で何しているの？」などと言われたときの苦悩を訴える声が多かった。

学校の理解を広げようと、同団体は5月、ODの症状や対処法をまとめた約30ページの冊子を作り、各地の中学校約5千校に配った。塩島さんは「本人のペースで学校生活を送れるよう、『無理しないで』などと接し方に配慮してほしい」と訴える。

大阪府八尾市の「起立性調節障害（OD）家族の会～Snow～」は2013年から、ODの子供や親の集まりを月1回開く。今年7月の会には最多の29人が参加し、「高校受験はどうしたらいいか」「病状がよくならず不安だ」といった悩みを互いに打ち明けた。

参加希望者が増え、今春から同府豊中市でも集いの場を設けている。代表の星島久美さん（51）は「家庭に閉じこもらず、話を聞きに来てほしい」と呼びかける。

「OD低血圧クリニック田中」（大阪市北区）の田中英高院長はODについて「まず診察を受けたうえで、子供が治療に前向きになれるよう家庭や学校で支えることが重要だ」と話している。

■「立っていて気分悪い」「午前中に不調」下半身に血液たまり発症 学会がチェックリスト

朝起きられない子供が一定割合でいることは医師らには以前から知られていた。不登校

児にこうした症状がよくみられたため、ODではなく、ストレスなどが原因の「心の病」と診断されることが多かった。

日本小児心身医学会は2006年、小児科医向けのガイドラインを作成した。ODの子供は下半身に血液がたまり、だるさや目まい、頭痛などの症状が現れるため、横になった状態から立ち上がった際の血圧の変化を調べて判定している。


一般向けに主な症状をまとめたチェックリストも作った。

「立っていると気持ちが悪くなる」「朝なかなか起きられず、午前中調子が悪い」など計11項目あり、3つ以上当てはまる場合は小児科の受診を推奨している。

起立性調節障害(OD)のチェックリスト

- 朝なかなか起きられず、午前中調子が悪い
- 立ちくらみや目まいを起こしやすい
- 立っていると気持ちが悪くなる
- 入浴時、あるいは嫌なことを見聞きすると気持ちが悪くなる
- 少し動くと動悸(どうき)や息切れがしやすい
- 顔色が青白い
- 食欲不振
- 腹痛がある
- 倦怠(けんたい)感がある、あるいは疲れやすい
- 頭痛がある
- 乗り物に酔いやすい

(注)日本小児心身医学会のガイドラインを基に作成



3つ以上当てはまる場合は受診を

キラキラ閣僚名 英訳は平凡 「革命」「1億」含まれず

毎日新聞 -2017年8月11日
 安倍晋三首相は2012年の第2次内閣発足以降、「女性活躍」「1億総活躍」と独特のキャッチフレーズを閣僚名に採用してきた。3日の内閣改造でも茂木敏充経済再生担当相に「人づくり革命担当相」を兼務させた。閣僚名の英語表記を探ってみると、情緒的な日本語名とのギャップが浮かび上がる。【佐藤丈一】識者「アピール優先」

政府は対外発信を目的に、ホームページに閣僚名の英語表記を掲載している。人づくり革命担当相は「Minister for Human Resources Development」。直訳すれば「人材開発担当相」だ。1億総活躍は「Promoting Dynamic Engagement of All Citizens(全国民の精力的な参画の推進)」となる。

両者とも日本語ではインパクトの強い「革命」「1億」に当たる英単語は含まれていない。

安倍内閣の閣僚名の英語表記

閣僚名(上段)・設置時期(下段)	英語表記と直訳
 人づくり革命担当相 2017年8月 茂木敏充氏	Minister for Human Resources Development (人材開発担当相)
まち・ひと・しごと創生担当相 16年4月	Minister in charge of Regional Revitalization (地域再活性化担当相)
1億総活躍担当相 15年10月	Minister for Promoting Dynamic Engagement of All Citizens (全国民の精力的な参画推進担当相)
地方創生担当相 14年9月	Minister of State for Regional Revitalization★ (地域再活性化担当相)
 女性活躍担当相 同 野田聖子氏	Minister in charge of Women's Empowerment (女性の社会的地位向上担当相)

※★当初は「Minister in charge of Overcoming Population Decline and Vitalizing Local Economy in Japan」(人口減少の克服と地域経済活性化担当相)と表記。直訳はいずれもThe Mainichi編集部による

『コミュニティ事典』 伊藤守、小泉秀樹、吉原直樹ら編 読売新聞 2017年08月11日

地域社会、共同体などと訳されるコミュニティは、行政の街づくりや福祉、防災などさまざまな分野で使われるが、その意味はつかみにくく、グローバル化の時代にいつそう多義的になっている。

伊藤守、小泉秀樹、吉原直樹ら編『コミュニティ事典』（春風社）は284人の執筆者が、「コミュニティの思想と歴史」「ボランティア、NPO、NGOとコミュニティ」などさまざまなテーマに沿って解説する。災害からの復興やネット内のつながり、日本の中のマイノリティーや各国のコミュニティの実例紹介など、総計417項目の詳細な記述が特色だ。自治体別「コミュニティ・防災担当窓口」一覧など資料編も。1143ページ。25000円。



福井) JR福井駅にはぴりゅうポスター登場 国体PR 影山遼

朝日新聞 2017年8月11日

はぴりゅうが福井国体と障スポをPRするポスター＝福井市中央1丁目のJR福井駅構内



県外から福井に来た人に福井国体と全国障害者スポーツ大会（障スポ）をPRしようと、玄関口となるJR福井駅構内の柱に、国体のマスコットキャラクター「はぴりゅう」が描かれたポスターが貼り出された。県大会推進課によると、ポスターは縦約1メートル、横約1・4メートル。はぴりゅうや、その兄弟姉妹とともにカニやメガネ、恐竜化石などがデザインされている。

5本の柱に計20枚のポスターが掲示されている。県大会推進課の担当者は「国体、障スポを認識してもらい、一緒に盛り上げてほしい」と話している。（影山遼）

全国障害者スポーツ大会ロゴデザイン決定 2022年栃木県で開催

下野新聞 2017年8月11日



全国障害者スポーツ大会のロゴデザイン

県保健福祉部は10日、2022年に本県で開催される第22回全国障害者スポーツ大会（いちご一会とちぎ大会）の愛称・スローガンのロゴデザイン＝図＝が決定したと発表した。同大会直前に開催される第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」と一体となった普及啓発を図っていくことから、国体の愛称・スローガンのロゴと調和の取れたデザインとした。今後、イベントやポスター、グッズなどに活用し、大会をPRしていく。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行